

動物はみんな先生

筒井敬介 作 斎藤博之 画



動物はみんな先生

筒井敬介作 斎藤博之画



あかね創作児童文学 11

動物はみんな先生



著者 筒井 敬介
発行者 岡本 陸人
印刷 新興印刷製本株式会社（本文）
錦明印刷株式会社（オフセット）
製本 大徳製本株式会社
発行所 株式会社 あかね書房
東京都千代田区西神田3-2-1 〒101
電話 03(263)0641〈代〉
振替 東京 3-64150

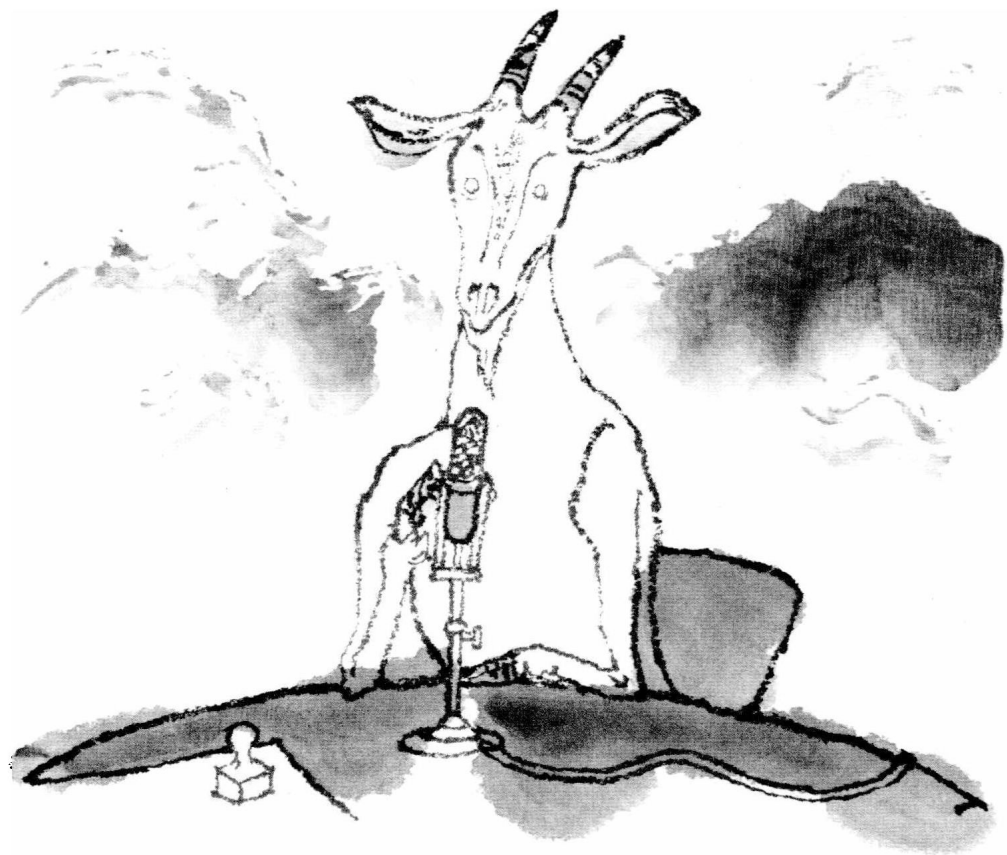
1979年2月5日第3刷

NDC 913 8393-16711-0027

筒井 敬介
動物はみんな先生

あかね書房 1979
180p 21cm（あかね創作児童文学11）

© 1978 K. Tutui 著者との契約により検印なし
落丁・乱丁本はおとりかえします



「動物はみんな先生」

といつても、

「先生はどなたも動物」

なんてことでは、

けっしてありませんよ。

あわててはこまります。



もくじ

- 1 あのヤギが園長だつて＊ 6
- 2 ライオンはトラじゃない＊ 21
- 3 おや？ チンパンジーが＊ 37
- 4 これがデパート動物園＊ 53
- 5 入れ歯からみどりの傘へ＊
かき 68
- 6 なにもかも話したハト＊ 84
- 7 リこうなおサカナさん＊ 100



8 ゾウのわらの中には＊ 115

9 はこはれたニホンサル＊ 130

10 カンガル―はこわかつた＊ 146

11 いつか青い空高く……＊ 165

あとがき＊ 180

著者紹介

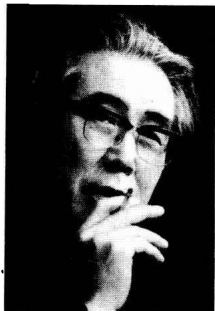
筒井敬介（つつい けいすけ）



一九一八年東京神田に生まれる。慶応義塾大学在学中の戦中を児童演劇運動に過ごし、戦後、劇作と児童文学執筆に専念。主な著書に「おねえさんといっしょ」「コルプス先生馬車へのる」「じんじろべえ」「ちゃんめら子平次」等、「ちかち山のすぐそばで」で、'73年度サンケイ児童出版文化賞大賞、'74年度国際アンデルセン賞国内賞を受賞している。現住所 東京都世田谷区三軒茶屋一―二七―一六

画家紹介

斎藤博之（さいとう ひろゆき）



一九一九年中国の審陽に生まれる。帝国美術学校卒業。絵本、挿画の仕事と共に、油絵、水墨画に意欲的な作品を発表、講談社出版文化賞、小学館絵画賞を受賞している。最近の主な著作品に「いまべんけいはんの大力」「りゅうとびわうし」「海の刀かじ」「河童曼陀羅」「水墨画の制作」等がある。現住所 神奈川県鎌倉市笹田一七七九―一二

動物はみんな先生

筒井敬介作／斎藤博之画



1 あのをギが園長だつて

これこそ、世界じゅうではじめての大事^{だいじ}事件^{けん}でしょう。

なにしろ、人間がつくつて、人間が世^せ話^わをやっていた、あのいままでの動物園。それがそっくり、住んでいる動物たちの手にわたることになったのです。

なぜそんなことになったのか。園長たちの月給^{げつぎゅう}が高すぎて払^{はら}えなくなつたのか。いや、いまそんなことを、ほじくり出しているときではないのです。

すぐにも動物たちは、じぶんたちの考えをまとめて、新しいやり方で、動物園をなんとかうまくつづけていかなければならないのです。

もちろん、動物たちの全体^{ぜんたい}会議^{かいぎ}が、ゾウのおりの前の広場でひらかれました。



——ここにペンギンが書いた、そのときの速記録そつぎろくがあります。一部分をちよつとつしてみましょう。

議長ぎちょう(コンドル) ……しずかにしろつたら。ばらばらにちがうことを話

すなつてば。——いま問題になつてゐることはだな、われわれをとじこめてゐる鉄の棒ぼうのおりだよ。それから深いコンクリートのみぞとか、金かなあみ。あいつをこれからどうするか。このまんまにしておいていいのか……。どうするね。

ゾウ ふん。わらわせるぜ。おりの鉄棒なんか、一ぺんひんまげてみせりや、あれが人間の気やすめだつてことがわかるんだ。やるぜ、おれは。

議長ぎちょう おい。注意するけどよ、なんでもぶつこわしちまうんなら、話は簡単かんたんだ。さつきからだいたいまとまつてきたように、いままでより居い心地ご心地のいい動物園にして、お客さんにもたくさんきてもらわなくちやな。意見はその方向でたのむぜ。

ゾウ あ、そうですかい。わるかったね。でもな、おりなんてものは、



それこそ居心地のわるいもんさ。とつばらうにかぎるね。ああ。

シマウマ ほか 賛成だなあ。生きているものどうしのあいだにですね、コンクリートとか鉄のような、いわば生きていない物が存在するというのは、こりやあ不自然。よくないね。

モルモット (小声で) きざったら、ありやしない。

ヒクイドリ 議長さん。

議長 あいよ。

ヒクイドリ なんだかへんなのよ。

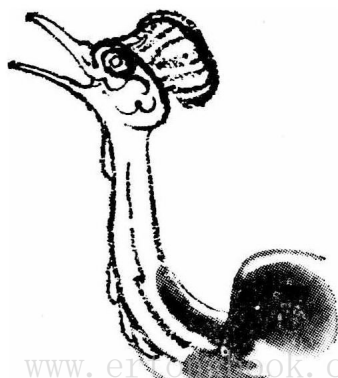
議長 え。どうかしたのかい。

ヒクイドリ なにいつてるのよ。だってもさ、おりなんてものは、人間があたしたちのほうへ、はいらないためにあるもんなんでしょ。ちがうかしら？

サル よ。その発言、いいよ。そうだと。

議長 こりやあ、べつの角度からの見方だなあ。——おい、みんな、ざわつかないできけたら。

ヒクイドリ なぜへんな顔するのよ。だってもさ、見物人たちはあたし



の名札^{なふだ}を見て、火のついたマッチ棒^{ぼうちょう}やライターをほうりこんだり、のどの中をのぞこうと、あーんさせたり。いやがって口をあけないと、こうもり傘^{がさ}をくちばしにひっかけて、のどの奥^{おく}まで見ようとして……

こわいわあ、あたし。おりがなくなるなんて、反対よ。

議長^{ぎぎちょう} 火のついたマッチやライターを食^くわせようつてのはわかるが、のどを見ようつてのは、なんだね。

ヒクイドリ 人間の詩人^{しじん}がさ、あたしの首を見て、「おお、生きている、しなやかな煙突^{えんとつ}よ」つて詩を書いたんだつて。だから、中をのぞいて見たがるのよ。

ハト（ごく小聲^{こごえ}で） それ、ほんとなんです。

サル コンクリートのみぞがなくなってみろよ。若い男^{わか}なんか、たばこを吸^すわせようと、中へとびこんできて追いまわすぜ、きつと。いまだつて、火のついたやつを、ほうりこむんだもんな。

議長 なるほど。——つまり、おりはあったほうがいいという……。

ラクダ それに、これはむしろ草食のものにとって重大なことなんだけど、猛獣^{もうじゅう}さんたちの意見をききたいもんだよ。ちょっといいにくいこ



ったが、おりをなくすなんてことは、わしらにとって命がけだもんなあ。
あ。

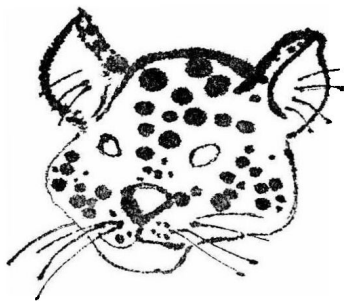
ヒヨウ　じよ、じよ、じょうだんもいかげんにしとくれよ。この動物園へつれてこられて何年になる？　指おりかぞえて、ざっと六年。六年たてば、いくら猛獣もうじゆうだって動くハクセイだ。ジャングル当時の気分なんてあるもんか、なあ、トラさん。

トラ　え。ああ、そうとも。そうだとも。ラクダの、あ、いや人間の食くい方かたなんてものは、じいさんがおやじに教えたそうだが、わしゃ知らんよ。なあ、ライオン。

ライオン　……そういう話は、いまの議題ぎだいからずいぶんはずれているんでね。議長、しつかりやってくださいよ。——どうして、わたしをじろじろ見るんだね。

ゴリラ　いやよ、いやよ。もうそんな話、やめて。

こんなふうに会議は横道へそれたり同じところで足ぶみもしたけれども、長い時間をかけたおかげで、ともかく申しあわせというか、これか



らみんなで守っていいこうという規則がきまったのでした。それは――

1・われわれは、昼といわず夜といわず、動物園の門から外はもちろん、塀から外へはけっして出ないこと。

2・おりは、いままでどおり残すことにするが、われわれは、これを「部屋」とよぶことにする。

3・部屋を残す意味は、われわれの自由をうばうためのものではなくて、見物人に安心した気分できてもらうためである。そしてまた、見物人にわれわれの生活が、おびやかされないためである。

4・なお、部屋には形だけの鍵をぶらさげるが、それは3の理由からであるから、あけたりしめたりは、われわれ自身で自由にやれることにする。

と、まあ、こんなふうなことでした。

ですが、まだまだ大問題が残っていました。

「なにはともあれ、われわれはしっかりせにやらん。それには、まず、



すっかりした園長をつくらにやならん。」

ごぼごぼした声でしたが、カバのいうことはまったく正しいことでした。さっそくシマウマが、

「ぼくも、いま、そう思ってたところ。やつぱり、チンパンジーくんなんか、いちばん適当^{てきとう}なんじゃない？」

いかにもりこうぶって早口^{はやぐち}でいいました。

が、これに口をはさんだのは、いつもは無口^{むぐち}のワニでした。

「反対だ。姿や形が人間に似^にているからというだけで、いちばんりこうとは、かぎらん。」

「ですが、それは学者が——。」

ナマケグマがいいかけると、



「それは人間の学者のいつてることだ。サルが人間の先祖だなんてことは——。」

ワニは大きな口から大きな声でおどしつけるようにいったのです。気のよいナマケグマは、この一言でだまってしまいました。このままひきさがるのはいかにも残念でした。そこで、ぎざついたワニの頭からしつぽの先まで、ちらっと見て「——むりもないね」と、小声でつぶやいたものです。しかし、こんなやり方では、決定する力もなにもありません。

ダチョウが、

「かんじんなのは、頭さ。頭の中身さ。」

といいました。ダチョウにしてみれば、いつもいつも、じぶんの頭の大きさが、からだにくらべてごく小さいのを気にしていたから、こういったまです。

ところがこういうのを、まるでまっていたように、金色の目をしたトラが、かっとうをあけてきばを見せると、

「そうだ。そして、頭の中身はヤギだ。ヤギのしゃべることには、じつ

に、おれですらしばしば教えられるところがある。園長はヤギにかぎると信じる。」

「^{いっき}気にしかりとばすようにいいきりました。

みんなはしばらくしーんとして、顔を見合わせて、「まあ、だれがなくても同じかな」という目つきになってしまいました。

「わからんのかね。ヤギのいうことは、いつだっていちいちもつともなことばかりだ。ふん。」

いらいらして、かぶせるようにいうトラにむかって、やっとキリンのお婆さんが、

「園長なんてものは、やってみなけりゃわかりませんね。だから、まあ、臨時^{りんじ}園長^{えんちよう}ということにして、はじめようじゃない？　ね、トラの旦那。」

こう、やんわりいわれたので、氣をとりなおしたトラは、

「よからうぜ。なあ、みんな。異議^{いぎ}あるまい。しかしな、いちいち臨時なんてくつつけるのは、めんどくさいもんだ。園長とよべばいい。ヤギ園長だ。」